

【古典文法 助動詞「に」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。（徒然草）

② その後物の具脱ぎ捨て、東国の方へ落ちぞ行く。手塚太郎討死す。手塚別当落ちにけり。（平家物語）

③ それにぞあるとは聞けど、あひ見るべきにもあらでなむありける。（伊勢物語）

④ 言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。（土佐日記）

⑤ 梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを（伊勢物語）

⑥ 十文字にかけわつて、うしろへつつと出でたれば、五十騎ばかりになりにけり。（平家物語）

⑦ いかに思ひ始めることにか、世の中に物語といふもののあなるを、（更級日記）

⑧ な起こしてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、（宇治拾遺物語）

⑨ いとうつくしう、生ひなりにけり。」など、あはれがり、めづらしがりて、帰るに、（更級日記）

⑩ 冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、（枕草子）

⑪ またの年の春ぞ、まことにこの世のほかに聞き果てにし。そのほどのことは、（建礼門院右京大夫集）

⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざなるを、（土佐日記）

⑬ 心にもあらず御覽じやられけるに、またいと近く觀音寺といふ寺のありければ、（大鏡）

⑭ そのことと候はでは、なれなれしきさまにやと、つつましう候ふうちに、（和泉式部日記）

⑮ 男どもの親も来にけり。この女の塚のかたはらに、また塚どもつくりて掘埋む時に、（大和物語）

⑪	⑥	①
⑫	⑦	②
⑬	⑧	③
⑭	⑨	④
⑮	⑩	⑤

【古典文法 助動詞「に」識別①】解答

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。（徒然草）

② その後物の具脱ぎ捨て、東国の方へ落ちぞ行く。手塚太郎討死す。手塚別当落ちにけり。（平家物語）

③ それにぞあるとは聞けど、あひ見るべきにもあらでなむありける。（伊勢物語）

④ 言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。（土佐日記）

⑤ 梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを（伊勢物語）

⑥ 十文字にかけわつて、うしろへつつと出でたれば、五十騎ばかりになりにけり。（平家物語）

⑦ いかに思ひ始めることにか、世の中に物語といふもののあなるを、（更級日記）

⑧ な起こしてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、（宇治拾遺物語）

⑨ いとうつくしう、生ひなりにけり。」など、あはれがり、めづらしがりて、帰るに、（更級日記）

⑩ 冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、（枕草子）

⑪ またの年の春ぞ、まことにこの世のほかに聞き果てにし。そのほどのことは、（建礼門院右京大夫集）

⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざなるを、（土佐日記）

⑬ 心にもあらず御覽じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありければ、（大鏡）

⑭ そのことと候はでは、なれなれしきさまにやと、つつましう候ふうちに、（和泉式部日記）

⑮ 男どもの親も来にけり。この女の塚のかたはらに、また塚どもつくりて掘埋む時に、（大和物語）

⑪ 完了	⑥ 完了	① 断定
⑫ 断定	⑦ 断定	② 完了
⑬ 断定	⑧ 完了	③ 断定
⑭ 断定	⑨ 完了	④ 断定